# あ　と　が　き

学習指導要領の全面実施となって３年目となる本年度，本校では研究主題を「未来に生きて働く資質・能力の育成（５年次）～発達の段階を視野に入れた『探究』のしかけ～」と定め，研究を進めてまいりました。

本研究主題のもと４年次となる昨年度は，本校が定義する『自己調整』について，各教科等の目標を達成するための手段であることや，一単元など長期的に見取る必要があること，教師による直接的と間接的の２つの手立てのバランスが重要であること等，明らかとなったことが成果として挙げられます。しかし，間接的な教師の手立てに関わる取り組みが不十分であったことや内容の調整，学び方の調整と主体・協働・活用・省察の姿を繰り返し豊かにすることとのつながりが分かりにくく，理論面での整理が必要であったことが課題として残りました。それらを踏まえ，本年度は，子どもの『探究』の姿を引き出すために，低学年から高学年まで発達の段階に応じた指標を作成し，その姿を引き出すための教師の手立て・支援の在り方について研究を進めてまいりました。

本年度，研究の一端をみなさまにご覧いただく機会として，「複式授業研究会」「教育研究発表会」「ICT 活用授業研究会」を開催させていただきました。また，研究広報誌「LIVE 創 REATOR」の発刊もいたしました。

私たちの実践研究に対しましては，多くの先生方にご指導，ご助言いただくことができたこと，心より御礼申し上げます。本年度もオンラインではありましたが，文化庁次長 合田哲雄先生には，貴重なご指導，ご助言を賜りました。合田先生には，子どもが探究するときには，立ち止まり，振り返り，考え直すことが大切であること，一人一人の特性に応じた教育として，「みんな同じことができる」から「他者との差異や違いに意味や価値があること」へと変革してきていることについて，ご示唆いただきました。今後，これらのことを念頭に置いて研究を進め，日々実践を積み重ね，子どもの学びの姿から研究を検証していきたいと考えています。

今回，実践を紀要としてまとめることは，正に子どもに育まれた力を子どもの姿で検証することになると考えています。真摯に誠実に，職員一同取り組んでまいりましたが，まだまだ未熟で拙いものでもあります。今日まで，大勢の皆様からいただいたご意見・ご指導を糧に，今後も研究を進めていく所存です。多くの方々にご高覧賜り，ご教示，ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長　　辻本　和孝